

47

都道府県

オススメご当地本



日本全国 47 都道府県各地を舞台にしたオススメ本を、ベレ出版の社内で集めてみました。好みは人それぞれですので「何でこれを選ばない」「自分だったらこれを選ぶ」ということもあるでしょう。また、地元の方々のほうが知られざる名著を知っているのではないかと思います。気楽に眺めてみていただければ幸いです。また、これをヒントに「本を通して日本全国各地の雰囲気味わえるフェア」をやってみたら面白いのではないのでしょうか？ぜひお試しください。



北海道

『ホテルローヤル』

桜木紫乃



《お話の舞台》
釧路湿原を背に建つ小さなラブホテルが舞台。

栃木県

『火車』

宮部みゆき



《お話の舞台》
捜査上の場面で宇都宮市が結構出てくる。

石川県

『武士の家計簿』

磯田道史



《お話の舞台》
加賀藩の会計担当・猪山家の家計簿研究から当時の暮らしが分かってくる。

滋賀県

『成瀬は天下を取りにいく』

宮島未奈



《お話の舞台》
大津市が舞台、滋賀愛が満載。祝本屋大賞！

岡山県

『わたしの小さな古本屋』

田中美穂



《お話の舞台》
倉敷市にある「蟲文庫」の店主の本。立ち上げから現在まで。

佐賀県

『葉隠入門』

三島由紀夫



《お話の舞台》
「葉隠」は佐賀鍋島藩士山本常朝著。三島由紀夫による「葉隠」の解説本。

青森県

『津軽』

太宰治



《お話の舞台》
金木町（現五所川原市）出身の主人公が津軽各地をめぐる故郷の良さを再発見する紀行の物語。

群馬県

『沈まぬ太陽』

山崎豊子



《お話の舞台》
上野村の御巣鷹山付近で起きた日航機事故が重要な要素。

福井県

『高野聖』

泉鏡花



《お話の舞台》
主人公が若狭へ帰省する途中に出会った旅僧に、敦賀の宿で怪奇譚を聞く。

京都府

『四畳半神話大系』

森見登美彦



《お話の舞台》
京都大学の学生がサークルを通して大学生活を変えていく話。

広島県

『黒い雨』

井伏鱒二



《お話の舞台》
広島市が舞台。原爆投下による悲劇を描く。

長崎県

『沈黙』

遠藤周作



《お話の舞台》
島原の乱後の長崎が舞台。隠れキリシタンの話。

岩手県

『風の又三郎』

宮沢賢治



《お話の舞台》
特定はできないが住田町の種山ヶ原、花巻市、大迫町あたりが舞台だと考えられる。

埼玉県

『分解者たち』

猪瀬浩平



《お話の舞台》
さいたま市見沼田んぼ。首都圏の周縁で多様な者の営みを著す。

山梨県

『ウスケボーイズ 日本ワインの革命児』

河合香織



《お話の舞台》
甲州市勝沼など。ワイン作りに情熱を傾けた者たちの物語。

大阪府

『夫婦善哉』

織田作之助



《お話の舞台》
大阪市ミナミ、法善寺横丁にあるぜんざい店から。内縁夫婦の転変物語。

山口県

『共喰い』

田中慎弥



《お話の舞台》
下関市が舞台。開発から取り残された貧しい「川辺」で繰り広げられる「抗えない血の記憶」

熊本県

『草枕』

夏目漱石



《お話の舞台》
玉名市小天温泉がモデル。「非人情」の世界を描く。

宮城県

『紙つなげ! 彼らが紙の本を造っている』

佐々涼子



《お話の舞台》
東日本大震災で停止した日本製紙石巻工場の復興のお話。

千葉県

『木更津キャッツアイ』

宮藤官九郎



《お話の舞台》
木更津市が舞台。昼は草野球チーム、夜は怪盗団の5人組のお話。

長野県

『河童』

芥川龍之介



《お話の舞台》
穂高山（岳）に登山に行く途中に河童の世界へ。

兵庫県

『細雪』

谷崎潤一郎



《お話の舞台》
芦屋市、西宮市、神戸市。第二次大戦前ごろの阪神間の生活文化が描かれる。

徳島県

『眉山』

さだまさし



《お話の舞台》
徳島市の眉山がモチーフ。都会に出ていた主人公が母の容態悪化でふるさと徳島に。

大分県

『十角館の殺人』

綾辻行人



《お話の舞台》
大分県の無人島が舞台。著者のデビュー作、現在ドラマで話題。

秋田県

『邂逅の森』

熊谷達也



《お話の舞台》
阿仁町打当（現北秋田市）のマタギ（猟師）の壮大な物語。

東京都

『ワセダ三畳青春記』

高野秀行



《お話の舞台》
新宿区早稲田界限。ワセダのぼろアパートが舞台のおかしくて切ない青春物語。

岐阜県

『ホハレ峠』

大西暢夫



《お話の舞台》
徳山村（現揖斐川町）、ダムに沈んだ村に1人暮らし続けた女性の話。

奈良県

『死者の書』

折口信夫



《お話の舞台》
葛城市にある當麻寺に伝わる当麻曼荼羅縁起・中將姫伝説に想を得て書かれた。

香川県

『海辺のカフカ』

村上春樹



《お話の舞台》
東京から家出したカフカ少年がたどりついたのは高松市の図書館。

宮崎県

『山頭火俳句集』

種田山頭火



《お話の舞台》
有名な「分け入っても分け入っても青い山」の句が高千穂周辺。

山形県

『シンセミア』

阿部和重



《お話の舞台》
著者の出身地、山形県東根市神町が舞台の物語。町と一族の歴史を描く。

神奈川県

『風が強く吹いている』

三浦しをん



《お話の舞台》
箱根駅伝出場を目標にたった10人で絆を育み成長する話。

静岡県

『もののかんづめ』

さくらももこ



《お話の舞台》
短大時代にアルバイトした静岡駅ビルの食品売場の話など。

和歌山県

『岬』

中上健次



《お話の舞台》
著者の郷里である紀州熊野、新宮市が舞台。血の宿命から逃れられない青年が主人公。

愛媛県

『永遠の仔』

天童荒太



《お話の舞台》
瀬戸内海の小島の精神科病棟で3人の主人公は出会う。親子関係の暗部がモチーフ。

鹿児島県

『故郷忘じがたく候』

司馬遼太郎



《お話の舞台》
日置市東市来町美山（旧猪苗代）。豊臣秀吉の命で連行された朝鮮陶工、薩摩焼発祥のお話。

福島県

『草野心平詩集』

底本 蛙



《お話の舞台》
草野心平が上小川村（現いわき市）出身である。

新潟県

『北越雪譜』

鈴木牧之



《お話の舞台》
魚沼付近が舞台。江戸時代のベストセラー本。

愛知県

『さよならデュッシー』

中山七里



《お話の舞台》
名古屋市伏見が舞台。コンクールの舞台「しらかわホール」も実在する。

鳥取県

『田舎のパン屋が見つけた『腐る経済』』

渡邊格



《お話の舞台》
智頭町のパン屋さん「タルマリー」の話。（執筆時は岡山県真庭市）

高知県

『県庁おもてなし課』

有川浩



《お話の舞台》
高知県庁が舞台。著者本人が観光特使を依頼された体験をきっかけに作られた。

沖縄県

『宝島』

真藤順文



《お話の舞台》
米軍統治下の沖縄が舞台。故郷を取り戻すために立ち上がる人々の壮大な話。

茨城県

『夜のピクニック』

恩田陸



《お話の舞台》
著者の出身校水戸一高の伝統行事「歩く会」から。

富山県

『大コメ騒動 ノベライズ』

戸屋まい



《お話の舞台》
魚津市が舞台。女性による市民運動の発端になった事件。

三重県

『小説伊勢物語 業平』

高樹のぶ子



《お話の舞台》
クライマックスが伊勢神宮。

島根県

『出雲と大和』

村井康彦



《お話の舞台》
古代世界における出雲の存在と役割がわかる。

福岡県

『逃亡くそたわけ』

絲山秋子



《お話の舞台》
精神科病棟を抜け出した2人の主人公が福岡から九州縦断。



三足の草鞋を履くオーナー
が営む町の本屋さん

マルジナリア書店



鎌倉時代に北条泰家率いる鎌倉幕府と、新田義貞率いる反幕府軍との間で起きた分倍河原の戦い。鎌倉幕府が滅亡にいたる節目となった合戦ですが、その舞台となった分倍河原にあるのが、今回ご紹介するマルジナリア書店。店主の小林さんは、書店を営む傍ら「よはく舎」という出版社、さらには紙とデザインのお店「kanitowa」も経営されています。そんな「三足の草鞋」を履いて日々奮闘されている小林さんに、開店した理由やこれからの目標など、色々とお話を伺ってみました。

開店のきっかけ

私は出版社も経営しているのですが、書店の数がどんどん減っている昨今、自社の書籍をお客様に見ていただく機会をどうやったら増やせるのか、ずっと考えていました。もちろん今ある書店さんとの取引を拡げるという選択肢もあるのですが、小さい出版社ですので、なかなか他の出版社さんと同じようにはいかない側面もありまして…。「だったら自前の書店なり、売り場を持っていたほうが良いのではないか」と思ったのが開店のきっかけです。

分倍河原という場所を選んだのは、良く知らない場所よりは、個人的になじみのある町に店を構えたいという思いがあったからです。町の雰囲気やまわりの様子がある程度わかっていることで、私が今までに培ってきた感覚も活かせるのではないかと考えました。

自然のふしぎを解明！ 超入門「地理」ペディア

地理おた部 四六並製 本体 1,600 円
978-4-86064-770-4

地理は自然や世の中のしくみを明らかにする、とてもおもしろい分野です。地理を学ぶと、近所や旅行先で見る地形や、日々の天気・気候の「なぜ？」を知ることができます。

本書では「液化化」「フェーン現象」「エルニーニョ現象」など、ニュースや天気予報でよく耳にするけれど、じつはよく理解していない用語や、意外と説明できない自然のしくみについて、写真・イラスト・マンガをふんだんに盛り込みながら、ウンとやさしくわかりやすく解説しました。高校レベルの自然地理の基礎知識をおおむねカバーしており、興味あるトピックから写真やイラストを眺めるだけでも、楽しく地形や気候の成り立ちや理由に触れることができるでしょう。自然のふしぎが「読んで」「見て」わかる地理の楽しい入門書！

暮らしのスペイン語表現集

音声 DL 付
佐竹謙一 佐竹パトリシア A5 並製 本体 2,400 円
978-4-86064-766-7

自己紹介からはじめるコミュニケーション表現から、買い物、レストラン、電車、病院などで使う生活表現まで、日常的で身近なスペイン語表現と語彙を豊富に収録。暮らしに役立つのはもちろん、スペイン語学習者には基本で必須となる単語と表現を学ぶことができます。スペインとラテンアメリカの生活事情にかかわる表現と語彙と、日本語で生活していても頻出する語彙や表現をスペイン語に置き換え、さまざまな表現パターンを紹介。特別な状況や非日常的な状況は入れず、日常のリアルな表現だけを集めています。ダウンロード音声には、スペイン語表現を収録。日本にいながらもスペイン語圏で暮らしているようにスペイン語を身につけられる一冊です。

こんなお店です



〈マルジナリア書店〉

- ・東京都府中市片町 2-21-9 ハートワンプラザ3階
- ・分倍河原駅徒歩0分
- ・土日 10-19 時、その他 13-19 時営業
- ・マルジナリアとは「本の余白への書き込み」を意味する英語
- ・Bluesky (@marginaliabs.bsky.social)、Instagram(marginaliabs)にてイベントなどの最新情報がチェックできます。

▼公式サイト



▼Instagram



▼Bluesky



英会話 イコール 瞬間英作文

amazon ランキング
英会話 第1位
(英会話部門・2024/2/28 調べ)
Amazonおよび Amazon.co.jp は、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の所有です。

中学1・2・3年レベルのやさしい英文を、スピーディーにたくさん作るトレーニングで、「英作文回路」ができる！
→ 英語がどんどん話せるようになる！

CD2枚付 どんどん話すための瞬間英作文トレーニング 森沢洋介 / 1800円 + 税

ベレ出版

2023 年、買って良かったもの 〈オオイシ〉

このコラムの当番が自分に回ってくるまで、運転免許の更新を半年以上失念し 2 週間 14 万円の教習所合宿に行くほどの面白い出来事が起こらなかったため、何に関する記事を書こうかひたすら悩む、といういで何もなかったところ、無常にも時間だけが過ぎてゆきました。

ベレベレ通信を完成させるためには「ぶかぶかのベレー帽」を書かなければなりません。ついに何もしないことの不安に耐えられなくなり、お風呂の中で千思万考した末、【2023 年買って良かったもののベスト 1】を書くことにしました。通常こういったタイプのテーマは【ベスト 3】多くて【ベスト 10】くらいで展開するのが古代からの習わしですが、私は 1 つしか書かないことに決めました。熟考に熟考を重ね、1 つに絞るからこそ、本当に人にシェアしたいものを限りなく純粋に近い姿で抽出でき、このはしこの小さな記事を偶然読んでくださっている方に何かを届けられるのではないかとという仮説を立てたのです。

消費行動の様態や傾向は人それぞれであるからして、一個人の“その年最高のお買い物”が他者にも同様の価値をもたらすとは限りませんが、それでも「これはいけるやろ」というものを決定しました。それは、2023 年の 1 年間、私が津々浦々で行なったありとあらゆる物質的お買い物（ガチャガチャ含む）をシード権無しのトーナメント形式で戦わせ、優勝したものと言っても過言ではありません。そして、その玉石混交の激戦を制し、映えある「ベスト 1」の称号を手にしたのが、DOLTS のジェットウォッシャーです。水流で歯をきれいにする装置なのですが、これ単体で使うというよりも普段の歯磨きに併せて使用することが推奨されています。2 万円弱（2023 年時点での観測）のこの機械を普段の歯磨きに導入することによって、まるで歯医者さんに行った直後のような爽快感を手軽に味わうことが可能になります。1 日の始まりや終わりに、または運動を始める前に、歯をめっちゃつるつるにできる喜びを知っていますか。私は知っていますよ。自分の気が済むまで歯を磨く楽しみ、ミントの香味によって一度全てをリセットできるという感覚、興味ありませんか。

というか、歯って、大事ですよ。虫歯って一度できたら不可逆なのはご存知ですか。削るということはつまり、少しずつ「失っている」ということなんですよ。もし自分の歯 1 本に値段を付けるとしたら、あなたはいくらの値段を付けますか。DOLTS のジェットウォッシャー、まだ持っていない人はなぜ買わないのですか。

書店である以上、本をお買い上げいただくのはもちろんありがたいのですが、選書して並べた本を、そのお客様が「読みたい」と思ってくれたことが何より嬉しいのです。そのお客様が再来店されて、別の本を買ってくれたら最高ですね。本の魅力と選書した私の思い、そしてお客様の気持ちとが合わさった、「本が好きという思い」が広がっていくような気がしますし、「本好き仲間が増えた！」という喜びも感じることができます。

今後の目標

「マルジナリア書店絵本大賞」というものを作り、『犬ずもう』（出版社めくるむ）を第 1 回目で取り上げさせていただきました。店頭で展開したことで多くのお客様にご覧いただけましたし、著者の方も喜んでくださったようです。今後もこのような個人賞を作成、発信することで、少しでも書店業界が盛り上げるきっかけを作っていきたいです。厳しいと言われる書店業界ですが、楽しんで発信し続ければお客様にも伝わると思いますので。

他の書店さんでも、個人賞やさまざまな企画など、盛り上がる仕掛けをどんどんしていってくださったら、いち「本好き」としてとても嬉しく思います。

